

平成 29 年度幼保連携型認定小奴可こども園自己評価結果報告

平成 29 年度実施した自己評価に基づきその結果を次のように公表します。

報告者 小奴可こども園 園長 吉川由基子
 自己評価者 園長 1 名 副園長 1 名 保育教諭 9 名
 自己評価日 平成 29 年 9 月 15 日 平成 30 年 3 月 5 日
 第三者評価日 平成 30 年 2 月 9 日 評価者 3 名

自己評価項目の設定

- | | | |
|------------------------------|-------|--------------|
| 1 保育の基本姿勢及び保護者・地域との関わりに関する事項 | 20 項目 | |
| 2 健康に関する事項 | 14 項目 | } 全
69 項目 |
| 3 人間関係に関する事項 | 12 項目 | |
| 4 言葉に関する事項 | 9 項目 | |
| 5 環境に関する事項 | 11 項目 | |
| 6 表現に関する事項 | 10 項目 | |
| 7 乳児・1 歳児保育基礎事項 | 13 項目 | |
| 8 各自の所感(努力したこと・改善点等) | | |

自己評価の評価点

- 各自・各項目 10 点評価
- 各項目ごとの自己評価の結果はつぎのとおりです

	本園の 運営・教育・保育目標等	取り組み状況
実践 テー マ	子どもの成長を見守りながら・子どもの成長を喜びながら 子どもも親も「育つ・育ちあう」を実感	職員への周知を行い、子どもの育ちの現状からテーマ検証をしながら進めてきた
理念	○入園児童及び地域の子どもの健全な人間形成を図るため、子どもの最善の利益を尊重する ○こどもの尊厳を大切にするために、すべての大人が子どもへの正しい観念を持ち、家庭や地域協働の中で、子どもの健全な心身の発達を促していく ○利用者(こども・保護者)の立場を尊重し、一人一人のニーズら応じてきめ細やかな教育・保育を提供しながら、子どもも大人も自己実現を図る場としていく	理念と実践が結び付いているかの見直しをできるように、会議等での意識化を図った

方針	<p>○教育・保育要領に基づき、発達に応じた教育保育及び保護者との緊密な連携のもと、大人との十分な愛着関係を形成し、安全・安心・安定した生活と活動ができるようにする</p> <p>○一人一人の発達課題を的確に把握し、発達のプロセスを尊重しながら、教育保育を進めていく</p> <p>○保護者と共同して、よりよい生活の場となるよう常に、教育保育環境の改善に努める</p> <p>○小中学生との交流や保育教育の実習、ボランティアの受け入れを積極的に進める</p> <p>○地域社会との連携を深め、子どもや保護者の姿を地域に見えやすくすると同時に、だれもが参画しやすいこども園づくりに努める</p> <p>○地域の子育て支援のために、園を積極的に開放していく</p>	<p>教育・保育要領の学習を進めた。</p> <p>こども園の役割や保育の基本姿勢について学ぶ機会を持つようにした。</p> <p>交流事業や支援事業、園開放を積極的に進め、すべての職員が関わるように努めたり、情報交換を細やかに行った。利用者も多く、利用者の満足度も高かった。</p>
めざすこども像	<p>○健康な子ども (よく食べ・よく遊び・よく眠るこども) (笑顔がいっぱい)(明るい生活態度)</p> <p>○自立(自律)心のあるこども (自分でやろうとする)(自分で考えて判断する) (ルールを理解して守る)(目標をもって我慢よく取り組む)</p> <p>○やさしさ・思いやりのある子ども (友達が好き)(人と一緒にいることがうれしい) (人の考えを受け入れる)</p> <p>○意欲的にものに関わる子ども (もの・ひと・ことへの興味関心を持つ) (やる気 根気 工夫 創造 主体的 自主的)</p>	<p>すべての子どもの実態について、全職員・チーム内での情報交換に努めた。</p> <p>保育・教育の進め方や内容と、子どもの育ちの実態との関係性について検討し、目指すこども像の視点から実践の見直しを図るように努めた。</p> <p>自律心の育成については課題があるクラスだより、行事などを通して、保育の意図を明確に伝えるよう努力した</p>

	評価項目	評価結果概要	総合評価 (5点評価)
1	保育の基本姿勢・ 保護者・地域との 連携 14項目	<p>○子どもの発達課題について、全職員及びチームごとに状況確認とかかわりの視点について共通認識をするよう努めた</p> <p>○教育・保育要領の理解のために研修参加や園内研修に努めた</p> <p>○対人援助者としてのスキルアップを図るため、研修伝達や倫理綱領の遵守について園内研修に努めた</p> <p>○子育て支援事業や一時預かり事業などを通して社会的ニーズについての理解促進に努め、積極的に取り組んだ</p> <p>○計画作成・実践記録など適切な提出と管理を徹底したが、行事などが先行して、提出が遅滞気味となることがあった</p> <p>○保護者合同行事での父親の参加率はとても高く、意欲的に参加したり、保護者同士のつながり強化がみられた</p> <p>○高齢者との交流や、地域行事への参加、園内行事へのよびかけなど積極的に進めた。</p> <p>※職員の取り組み意識は高いことを評価した</p>	4.5
2	健康に関する事項 14項目	<p>○健康意識の芽生えと生活環境の改善(衛生環境・食育環境・運動環境等)に向け、職員間で計画的に取り組む努力をした</p> <p>○保護者啓発活動に積極的に取り組んだ (通信 クラスだより アウトゲイア取り組み)</p>	4
3	人間関係に関する 事項 12項目	<p>○受容と共感、応答関係を大切にしながら、子どもの愛着関係の形成と自立への援助を心がけた</p> <p>○友達関係を助け、友だちを大切にすることや約束を大切にすることなどへの取り組みをした</p> <p>○当番活動を積極的に取り入れ、役割意識や自己肯定感を高める取り組みを進めた</p>	4
4	言葉に関する事項	○気持ちよく挨拶を交わすことについては、	

	9 項目	<p>ほぼ達成できている。気持ちを汲み取り関わるということについても職員としての意識は高いが、禁止言葉や否定言葉についてはつい使ってしまう場面も見られた</p> <p>○自分の言葉で表現する言葉の獲得については、発達段階での丁寧なかかわりや、その場での言葉のかけ方について工夫や配慮について検討する必要がみられた</p>	3.5
5	環境に関わる事項 11 項目	<p>○遊び環境については、子どもの興味・関心に基づいた工夫や配慮し、発展的で活動的な実践に結び付くように努力した</p> <p>○子ども自身が考えたり、試したりすることについては、その意識はしているものの、保育者主導になりがちな面も見られた</p> <p>○発達に応じた遊具や玩具などの素材工夫は意識して取り組んだが、知的好奇心の駆り立てには年齢ごとでもう一工夫が必要だった</p> <p>○自然活動については各クラス共に積極的に実践した</p>	3.5
6	表現に関する事項 10 項目	<p>○リズム遊びなどは各クラスや合同で取り組み、身体表現の幅を広げていく努力をした</p> <p>○五感を通して、様々なイメージを膨らませ活動の幅を広げていくよう援助するよう努めた。制作活動などの素材の工夫や遊びの工夫について職員間で共通して取り組みを進めた。</p>	4
7	乳児・1歳児保育 の基本事項	<p>○一人一人の愛着形成の重要性についての理解を深め、一人一人の発達に丁寧に関わるよう全職員での個々の発達把握に努めると同時に、家庭との連携を密にした。</p> <p>○常に生活環境の見直しと保育の見直しを図りながら、低年齢保育を保育の基軸とすることを心がけた</p>	4
8	自由記述	<p>○書類等の提出が遅滞気味である反省が多く出された</p> <p>○職員間の連携・共通理解は、子どもの発達</p>	会議の持ち方について検

	や保育の基軸への共通理解が必要 <input type="checkbox"/> かかわりに対するスキルアップを自己課題とする <input type="checkbox"/> 保護者との信頼関係は良い	討・改善 する 研修参加 促進
--	---	--------------------------

第三者評価の結果

1 評価項目

- ① 運営の方針や施設環境・取り組みに関する事項 20 項目
- ② 各年齢ごとの指導や環境設定・援助に関する事項 30 項目

2 評価の方法

- ① 日案や評価項目について事前提出
- ② 各クラスの保育・教育参観・給食試食
- ③ 職員との意見交換
- ④ 評価者の意見交換と評価
- ⑤ 評価は各項目ごとに 一人 5 点

3 評価集計結果

- ① 各項目とも 4 点以上の高評価を得た
- ② 評価表以外の気づきについては、以下の意見が出された

- 様々な家庭環境・体調・個性の違う子どもたちの発達支援と援助をする保育教諭の姿に安心感と希望を感じた
- 指導目標や計画を基に保育している。日案について細やかで感心した
- 日常的に子どもの姿をよく見ていて、自己の保育を語る専門職としての意識の高さを感じた
- 全体的にとってもよく、園児が安心して過ごしていると感じた
- 職員の表情が良く、一人一人が積極的に働いておられると感じた
- 子どもの落ち着いた明るい表情をみて、保護者や子どもの安心感が伝わった
- 子どもを取り巻く諸問題も多く、人間の基盤である乳幼児期に、職員間の温かなつながりの中でよい子を育てていただきたい
- 0 歳から 5 歳まで、どの年齢も先生のほうを向いて目を見て聞く態度が素晴らしく先生との信頼関係の強さを感じた
- 落ち着いて生活している。中々の姿でした
- 全体的にとっても良い